様式6-4**支援時-活動会員確認事項チェックリスト（個人用）**

記入日　　年　　月　　日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　記入者（　　　　　 　　）

|  |  |
| --- | --- |
| １　必要物品 | 備考 |
|  | 携帯電話、充電器 | □有　　□無 |  |
|  | 筆記用具、電卓 | □有　　□無 |  |
|  | 大規模災害発生時アクションカード（佐賀県栄養士会） | □有　　□無 |  |
|  | マスク、消毒液（手指用）、使い捨て手袋等の感染予防用品 | □有　　□無 |  |
|  | タオル、ウエットティッシュ、ティッシュ | □有　　□無 |  |
|  | 簡易的な食料・飲料水 | □有　　□無 |  |
|  | 必要に応じて用意するもの | □有　　□無 |  |
|  | 簡易な救急用品（絆創膏など） | □有　　□無 |  |
|  | 着替え、長靴等　　　（訪問活動等実施の場合） | □有　　□無 |  |
|  | 帽子・防寒具・雨具等（　　　　〃　　　　　） | □有　　□無 |  |
|  | 簡易トイレ　　　　　（　　　　〃　　　　　） | □有　　□無 |  |
|  | 食料 | □有　　□無 |  |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　） | □有　　□無 |  |
| ２　支援者としての心構え | 備考 |
|  | 発熱や咳等の風邪症状がありませんか。その他、活動できる体調ですか。 | □有　　□無 |  |
|  | 派遣される被災地の被災状況をある程度把握していますか。（ライフラインなど） | □有　　□無 |
|  | いきなり活動をはじめるのではなく、まずは様子を見守りましょう。 | □有　　□無 |
|  | 被災者と話すときは、簡潔でわかりやすい言葉を使い、ゆっくり話しましょう。 | □有　　□無 |
|  | 他の支援者及び援助機関と連携し、協調性をもって活動しましょう。 ※詳しい内容は、「日本栄養士会災害支援チーム活動マニュアル」を参照ください。↓↓↓https://www.dietitian.or.jp/assets/data/about/concept/disaster/jdadat\_manual\_ver.1.pdf | □有　　□無 |

≪心構え≫　「大規模災害時の栄養・食生活支援活動ガイドライン」―日本公衆衛生協会ー

**●支援者の基本姿勢**

　　・派遣先の管理栄養士等職員自身も被災していることを念頭に置き、被災地への住民への支援活動と現地職員を支援する役割を認識して行動する。

　　・被災地の職員に余分な負担をかけることがないよう、筆記用具から報告書作成に至るまで、支援活動に必要な物品を持参するとともに、引継ぎなどについても自己完結を図る。

　　・混乱の中で被災地職員が具体的な指示を出すのは困難なことも想定されるため、割り当てられた業務のみではなく、栄養・食生活支援について、派遣栄養士が自ら考え、現地の了解を得た上で主体的に活動していく必要がある。

　　・被災地は勉強の場ではない。

　**●支援活動の留意点**

　　・自分自身の健康管理に注意し、自分の身は自分で守るよう心掛ける。

　　・被災者のプライバシーの保護及び秘密の保持に配慮する。研究目的の調査は行わない。

　　・避難所等への往復に当たっては、自主的な活動に心掛ける。

　　・支援活動等の状況共有を目的に行われるミーティングには必ず参加できるようにする。

　　・栄養、食生活支援をした結果や栄養に関する問題がある被災者の状況等は、活動記録に必ず記入し、現地で担当する保健福祉事務所管理栄養士等に提出し、情報をつなげる。

　　・避難所支援をする場合、各避難所のリーダー（責任者）に必ず挨拶をし、支援目的を明確に伝えて、まずは代表者等に食生活状況を聞く。また、最後にリーダーに支援した内容を簡単に説明し、必要に応じて「連絡票」の提示をする。

　**●支援活動の実際**

　　・被災者に負担をかけないよう、共感的に、状況をよく見て思いやりのある態度で対応する。

　　・最初の挨拶は重要であるので、自己紹介をして役割を述べる。

　　・説明は分かりやすく十分に、ゆっくり話す。

　　・心の傷を深め、不安感を増すような言葉は使用しない（お気持ちは分かります、きっとこれが最善だったのです、彼は楽になったんですよ、これが彼女の寿命だったのでしょう、頑張ってこれを乗り越えないといけません、できるだけのことはやったのです等）。

　　・被災者及び支援活動をしている市町村職員やボランティアは、毎日の緊張の中で精一杯の行動を繰り返しているので、現場の状況を見て批判するような発言、命令するような発言は絶対しない。

　　・支援活動中は心身ともにストレスがかかるというリスクが生じるため、十分なセルフケアが必要だが、一人だけで対応しないよう、仲間に伝えるようにする。

**－MEMO－**

